―岡垣の歴史と風土②―

神功皇后伝承が多い岡垣

岡垣歴史文化研究会　石井　邦一

仲哀天皇の后で、九州の熊襲を倒し、渡航して三韓（古代朝鮮の新羅・百済・高句麗）を討ち、凱旋して筑紫で応神天皇を出産した神功皇后の事蹟は、記紀伝承の中でも異彩を放っている。

この岡垣には、この神功皇后の伝承が多い。そこで、その地名の謂れを確かめてみよう。

まず「波津」である。『福岡県地理全誌』には「古ハ初トカケリ。村ノ名義ハ、昔、神功皇后御旗ヲ立玉ヒシ所ナル故ニ、旗浦ト名ケシヲ今ハ誤テ波津浦ト云ヘリ」とある。これは、神功皇后が熊襲を征討するために、初めて九州に上陸して、最初の旌旗を立てた場所が「旗」の地名になり、後にこれが波津となったもので、その際に大旗や小旗を立てられた場所を「大旗・小旗」と言ったが、今は「大波津・小波津」と呼ばれている。

▲神功皇后を祀る波津の大歳神社

また、波津の氏神、大歳神社の縁起には「産神也。つる所大歳の神也。相殿に仲哀天皇・神功皇后・応神天皇をも祭れり。社伝に神功皇后三韓より御帰朝の時、此所にて年越し給ひしに依て大歳の神を祭給ふとそ。…」（『筑前国続風土記附録』より）とある。

海を擁する波津には、海中の環礁にまで皇后との所縁が示されている。「御采瀬」がそれで「村ノ東三十間（約55メートル）。海中ニアリ。方三尺。潮ノ満干ニ隠見ス。全ク汐干ノ時ハ。陸行スヘシ。神功皇后。此所ニテ。年ヲ越サセ玉フ時。浦人海藻ヲ取テ捧シ故ニ。御采瀬ト名クト云。漁人此瀬ニ近ケハ。魚ヲ得ストテ。慎ミ避ク」（『福岡県地理全誌』より）とある。さらに、同じ海中の瀬に「旗ヶ瀬」があり、これについても「村ノ東五町餘。海中ニアリ。三反許ノ間。小瀬所々ニアリ。潮間ニハ。陸ニツツク。此所モ。皇后ノ遺跡ト云。」とある。

次に「手野」も、神功皇后に因んだ村名である。「村ノ名義ハ、神功皇后、高倉ノ社ニ参拝アリ、帰路鎧ノ小手ヲ、此ニ遺置キ玉ヒシ故ニ、小手ノ村ト云シヲ、後世、小ノ字ヲ去テ、手野村トスト云。」（『福岡県地理全誌』より）と言うものである。

小手は籠手とも書き、鎧をまとったときに、肩先から左右の腕を覆う武具である。この小手を手野で休息されたとき、ここに置かれて、そのまま出立されたので、この地を小手の村と言ったのを、後世に小の字を取り、手野村としたと言うものである。

次は川の名称で、まずは矢矧川である。上流域の上畑から海老津、山田、糠塚へ流れ、響灘に流入する矢矧川の名も、神功皇后にあやかった名称である。

その謂れは、この川の上流に自生する矢べら竹が、弓の矢に良いことを知り、これを伐採されたことから、この川を矢矧川と呼んだものである。「矧ぐ」の意は、竹に羽を付けて矢をつくることである。

もう一つは、高倉から吉木、元松原を流れる汐入川の上流部で、高倉神社辺りを乳垂川と呼んでいる。これは、神功皇后が御子を産まれて、お乳の出が悪くお困りの折り、高倉神社に祈願された。そのときのお告げで、お宮の脇を流れる川の水を飲まれたら、乳の出が良くなったということに因んだものである。

▲高倉神社沿いを流れる乳垂川